

第14回 土岐川流域新五流総地域委員会 議事概要

日時：令和6年10月28日（月）14:00～16:00

場所：東濃西部総合庁舎 5階 大会議室

1. 議事

- (1) 「総合的な治水対策プラン」の改定について (資料1)
- (2) 「流域治水」について
 - ・流域治水の取組について (資料2)
 - ・岐阜県における流域治水の効果的な推進のための分析レポート(初版) (資料3)
- (3) 意見交換（流域治水に関する取組について） (資料4)

2. 議事要旨

(1) 「総合的な治水対策プラン」の改定について

事務局から資料1を用いて「次期プラン改定」について説明があった。また、ハード対策、ソフト対策、長寿命化・耐震化、および自然共生川づくりに関する次期プランにおける目標の考え方や論点についても説明があった。

質疑応答、主な意見は下記のとおりである。

- ・河川環境にも定量的な目標を設ける方向性が国から示されている。中小河川における環境目標は、どうしたら定量的に定められるか今後議論が必要である。
- ・河川改修が遅れている河川については、関係機関で情報共有し協力して進めていきたい。

(2) 「流域治水」について

事務局から資料2を用いて、流域治水プロジェクト2.0に位置付けられた国、県、市町村の流域治水の取組について説明があった。また、資料3を用いて、「岐阜県における流域治水の効果的な推進のための分析レポート(初版)」についても説明があった。

質疑応答、主な意見は下記のとおりである。

- ・流域治水では、地域の特性を分析して、各関係者が協力して、何を行うかが重要である。この地域の年間降水量は他の地域に比べて多くはないが、氾濫域に市街地がある箇所があり、危険な場所に人が住む状況がある。土地利用の在り方について、まちづくりや森林整備を取り入れた治水について議論し、豊かな暮らしを目指すべきである。
- ・谷底平野に住む住民や平野部での開発、さらには山間地域といった多様な地域特性の中で何を行うかは難しく、国の流域治水施策集にはない岐阜県独自の取り組みが求められる。こうした地域特性に応じた多様な施策を検討していく必要がある。

(3) 意見交換（流域治水に関する取組について）

事務局から資料4を用いて、各市の「流域治水に関する取組」の提案と議論の進め方について説明があった。

各市の提案は下記のとおりである。

- ・多治見市：平成 23 年に浸水被害を受けた土岐川及び脇之島川周辺における対策事業を実施し、近年の洪水でも浸水ゼロの効果が確認されている。現在はソフト対策に注力しており、水防協力団体への登録や、雨水貯留施設補助制度の運用などの取組を進めている。
- ・土岐市：防災まちづくりの一環として、立地適正化計画を策定中であり、居住誘導区域の設定を進めている。また、ワンコイン浸水センサーを設置して情報提供を予定している。ハザードマップの更新とスマートフォンによる情報提供も予定している。土岐川沿いでは農地の宅地化が進み、使用されていない農業用水路の氾濫によって新しい家屋が浸水する被害が発生しており、ため池に関連する浸水も課題となっている。そのため、農業施設の適切な管理に向けた調査を行い、問題の一つずつ解決していきたい。
- ・瑞浪市：国や県によるハード対策が計画的に進められており、普通河川の緊急対策事業により浚渫も実施している。地域課題として、多数存在するため池や防災重点ため池について、排水機能と耐震機能の確保に向けた点検・修繕が求められている。また、下流域のリスク管理として水位低下の指導を行っている。立地適正化計画に基づき、居住誘導区域の設定を進める予定である。過去に浸水した小河川には危機管理型水位計を設置し、パトライトやサイレンを通じて情報提供を行っている。さらに、内水ハザードマップ作成や防災リーダー育成講座の開催にも取り組んでいる。
- ・恵那市：高齢化率や山林率が高く、上流域特有の条件を持つ地域である。普通河川の緊急対策事業により浚渫を実施している。ハード対策としては小里川や濁川での改修を岐阜県にて実施中である。森林整備計画に基づき、間伐も行っている。また、立地適正化計画のもと、浸水被害リスクのある区域を居住誘導区域から除外するなどの取り組みを検討していく。水位計や監視カメラの情報はホームページで公開し、ワンコインセンサーも 1 か所設置している。

その他意見は下記のとおりである。

- ・国の流域治水プロジェクトに加え、地域固有の課題を詳細に分析し、各関係者が連携して取り組む方針が必要である。
- ・農業用水路からの家屋の浸水について、古い区画整理であるため、新しい住民は以前に田んぼが埋め立てられたことを理解していない。こうした土地では、かさ上げを行うことで解消できる場合もあり、流域治水が重要である。
- ・全国的にため池の破堤災害が増えている。リスク管理が求められており、管理体制の強化が必須である。
- ・開発が進んで田んぼとして利用している土地が少なくなっている。また、耕作放棄地が増えてきており、一枚の田んぼのためだけになった農業用水路の管理に非常に困っている。
- ・貯留施設として下水道を絡めた施策をしている箇所がある。
- ・田んぼダムについては、下流側に保全区域があると効果的であり、小規模でも価値がある。川の流量を減らすだけでなく、内水氾濫や道路冠水を減らす効果がある。地域で完結し目に見える形で実現できればとても良い。地域としてできる部分があるのではないかな。

- ・土岐川では魚の種類がかなり減少している。
- ・河川管理業務の一部を漁業協同組合に委託し、河川協力団体として活動する方向性もある
- ・防災研修には国や県等の出前講座を利用するとよい。

以 上